

3/9-15#38キリストは死とハデス[陰府]のかぎを持っている。I。「私は最初の者、また最後の者、また生きている者である」(啓1:17b-18a):Aキリストが最初の者、また最後の者であることは、キリストが開始したことを完成することを暗示します。B主イエスは最初の者であるだけでなく初めでもあり、最後の者であるだけでなく終わりでもあります:啓22:13 私はアルファでありオメガである。最初の者であり最後の者である。初めであり終わりである。I「最初の者」は、彼に先立つ者がいないことを示します。「最後の者」は、彼に続く者がいないことを示します。II「初め」は、彼が万物の起源であることを示します。「終わり」は、彼が万物の終結であることを示します。IIIここで示しているのは、主イエスの前にも後にも何もないというだけでなく、彼がなければ起源も終結もないということです。Cキリストは最初の者また最後の者であるだけでなく、また初めと終わりでもあります。このことは、彼が召会生活を開始するなら、確かにそれを完成することを私たちに保証します。I主イエスは決してご自身の働きを未完成のままにしません。IIすべての地方召会は、主イエスが初めであり、終わりであることを信じなければなりません。III彼は、ご自身が彼の回復において開始した事を完成します。D諸召会のただ中を歩いているキリスト、すなわち諸召会のかしらであり、諸召会が属している方は、生きている者です。このゆえに、諸召会もからだの表現として、生きていて、新鮮で、強くあるべきです。II「私は死んだが、見よ、永遠にわたって生きている」(啓1:18a):A主は死の苦しみを受けましたが、再び生きました。啓2:8 スミルナに在る召会の使者に書き送りなさい。「最初の者また最後の者、死んだが再び生きた者が、こう言われる」。Bキリストは死の中へと入りましたが、死は彼を捕らえておくことはできませんでした。なぜなら、彼は復活であるからです。使徒2:24 この方を、神は死の苦痛から解き放って、復活させました。イエスが死に捕らえられていることは、あり得ないからです。C復活は主の日々を長くすることです。彼はご自身の復活において永遠にわたって存在します。Iイエス・キリストは今日、生きている者、復活の中にいる者です。IIキリストは命を分与するために、生きている者でなければなりません。Dキリストが生きている者であることの重要性は、彼が永遠に生きており、私たちの中に生きているということです。I彼は、私たちがあらゆる種類の死から離れ、そして立ち上がって生ける召会となることを願っています。II私たちは生きていればいるほど、ますます生けるイエスの証しとなります。III「この霊の中で、彼[キリスト]は獄にいる霊どもの所へ行って、

宣言されました」(1ペテロ3:19):1ペテロ3:18 キリスト...は肉においては死に渡されましたが、霊においては生かされたのです。19そしてこの霊の中で、彼は獄にいる霊どもの所へ行って、宣言されました。20彼らはノアの日に...神が辛抱強く待っておられた時に、従わなかったものたちです。A「この「霊ども」は、ハデスに留置されている、体のない死人の霊ではなく、ノアの時代に不従順によって墮落し、暗黒の穴に監禁されて、大いなる裁きの日を待っている天使たちのことを指しています(天使たちは霊どもです)。Bキリストは、肉体における死の後、彼の神性としての生ける霊の中でアビスに行って、これら反逆の天使たちに神の勝利を宣言しました。すなわち、神は、キリストにおいて肉体と成ったことと肉体におけるキリストの死を通して、神聖な計画を損なうサタンの方に対して勝利を得ました。C「獄」は、タルタロス、深く暗黒の穴を指しています。そこに、墮落した天使たちがとどめられています。IV「私は見た。一つの星が天から地に落ちてきて、これにアビスの穴のかぎが与えられた」(啓9:1):啓9:2 彼がアビスの穴を開くと、煙がその穴から、大きな炉の煙のように立ち上った。そして太陽と空は、その穴の煙によって暗くされた。A啓示録9:1の星はサタンを指しています。サタンは天から地に投げ落とされます。I天使たちは、星にたとえられています。IIサタンは天使長として、明けの明星でした。B「『だれがアビスに下るであろうか?』...」。それは、キリストを死人の中から引き上げることです」(ローマ10:7):Iギリシャ語で「アビス(abyss)」と訳されている言葉は、「アビソス(abyssos)」です。IIこの言葉はルカ8:31でも使われており、悪鬼どもの住みかを指しています。ルカ8:31 悪鬼どもはイエスに、アビスへ行くことをお命じにならないようにと願った。IIIそれはまた啓示録9:1から2、11節にも出て来て、「いなご」(彼らの王はアポロンです)が出て来る場所を示しています。啓9:11 彼らの上には一人の王、アビスの使いがいる。その名はヘブル語ではアバドンであり、ギリシャ語ではアポロンという名である。IV啓示録11:7と17:8は、獣、すなわち反キリストが上って来る場所を表徴します。啓11:7 彼らとその証しを終えると、アビスから上って来る獣が彼らと戦って打ち勝ち、彼らを殺す。17:8 あなたが見たあの獣は、昔はいたが今はおらず、やがてアビスから上って来て滅びに至ろうとしている。地上に住んで、世の基が置かれた時からその名を命の書に記されていない者たちは、昔はいたが今はおらず、やがて現れようとしている獣を見て、驚くであろう。V啓示録20:1と3節は、千年の間にサタンが投げ込まれ、閉じ込められる場所を

明確に述べています。啓20:1 また私は、一人の御使いがアビスのかぎと大きな鎖を手を持って、天から下って来るのを見た。3 彼をアビスの中へと投げ込み、彼の上でそれを閉ざし、封印して、その千年が終わるまで、彼がもはや諸国民を欺くことがないようにした。これらの事の後、彼はしばらくの間、解き放たれることになっている。6ローマ10:7の「アビス」は、キリストが彼の死後、復活の前に訪れた所を指しています。その場所は、使徒2:24と27節によれば、ハデスです。なぜなら、使徒2:24と27節は、キリストが彼の死後、ハデスへと行き、その場所から復活の中で起き上がったことを啓示しているからです。使徒2:27 あなたは、私の魂をハデスに捨てておかれず、あなたの聖なる者が朽ち果てるのを見させられないからである。7聖書の用法によれば、「アビス」という言葉は、いつも死の領域とサタンの暗やみの力の領域を指しており、それは地のさらに低い所であって、そこへキリストは彼の死後、下って行き、それを征服して、彼の復活の中でそこから昇りました。V.啓示録1:18bで主イエスは、「私は...死とハデスのかぎを持っている」と言っています。A人の墮落と罪のゆえに、死が入って来ました。そして死は今も地上で働いて、すべての罪人を集め、ハデスにもたらしめています。ハデスは死人がとどめられている場所です。Bしかしながら、召会生活において、私たちはもはや死とハデスの支配の下にいません。ピリピ3:10キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、11 何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。Cキリストは十字架上で死を廃棄し、復活においてハデスに打ち勝ちました。1死は全力を尽くしてキリストを捕らえておこうとしましたが、そうする力はありませんでした。2キリストは神と復活の両方であり、不朽の命を所有しています。3彼はそのような永遠にわたって生きている方であるので、死は彼を捕らえることはできません。4キリストはご自身を死に渡しましたが、死は彼を捕まえるすべがありませんでした。それどころか、死は彼によって打ち破られ、彼は死から復活しました。5ですから、キリストにおいて、死にはとげがなく、ハデスには力がありません。Dキリストは召会の中におられる方であり、死とハデスのかぎを持つ方であるので、死とハデスは私たちに対して何の力も持つはずはありません。E召会生活の中で、死とハデスのかぎは主の御手の中にあります。F私たちが死を対処することは不可能です。1私たちには死を取り扱う能力は全くありません。2死が入り込むときはいつでも、多くの人はそのことによって打ち破られます。G私たちは主イエスに私たちの間で動き行

動する立場、機会、自由な道を与えるなら、死とハデスはいずれも彼の支配の下に置かれます:マタイ16:18 私はこの岩の上に、私の召会を建てる。ハデスの門も、それに勝つことはない。啓20:14 また死とハデスが火の池の中へと投げ込まれた。この火の池が、第二の死である。1主イエスが召会の中で立場を持っていないとき、死が直ちに優勢になり、ハデスは力強くなって、死んだ者たちを閉じ込めます。2キリストが死とハデスのかぎ、権威を持っているのを、私たちが見ることは極めて重要です。3死は彼に服従し、ハデスは彼の支配の下にあります。4キリストが死とハデスのかぎを持っているゆえに、私たちは主を賛美すべきです。5私は会社で働き始めた頃、死とハデスから以下のような攻撃を度々受けました、「あなたは他の人に合わせて残業をし、仕事の後飲み会に参加しなければ、会社をクビになる」、「会社は召会ではない。あなたの社長、上司、同僚は皆、未信者である。ここは私(サタン)の王国である。世の人々に合わせ、私(サタン)に従うしかないのだ」。私はこのような死とハデスからの語り掛けを聞く度、内側が暗く、死に支配されていました。このような死と暗闇に支配される経験を何度も経て、ある時、私は主との交わりの中で次のことに気付きました、「これらは一見、現実のようであるが、実はサタンの騙す策略です。私は一切、サタンの話を考慮する必要はありません。更にサタンと会話する必要もありません。私は神の御子イエス・キリストとの交わりに召されました。私は主の中でサタンに命じる。悪魔サタンよ、私から退け!」。この時、私はローマ8:5~6「なぜなら、肉にしたがっている者は、肉の事柄を思い、霊にしたがっている者は、その霊の事柄を思うからです。肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です」を思い出しました。6節FT2後半は言います、「私たちが肉のことを思い、思いを肉の事柄に付けている時、死の感覚は私たちに警告として働き、私たちが肉から救い出されて、霊の中で生きるようにと促します」。その後、私はサタンに脅されて暗くなりそうになる時はいつも、次のように祈りました、「肉はサタン、罪、死の集会所です。私が思いの中でサタンと会話するとその結果はいつも死です。しかし、私は悔い改めて、思いの向きを霊に向け、思いを霊につける訓練をし、御言葉を用いて、主と会話します」。このようにして、私は主の中で、死とハデスの力から解放されることを経験しました。更に、この経験の後、私はビジネスライフにおいて、主の中で様々な障害を突破して、力強く前進することができるようになりました。